# 世界遺産・コモドの海を巡る
# 魅惑の帆船クルーズ!

恐竜の末裔と形容される「コモドドラゴン」で有名な
インドネシアのコモド島。
世界遺産にも登録された大自然の魅力は、
陸上に留まらず、海中世界まで広がっている。
2つの海流が交じり合う奇跡の海で、海の魅力にどっぷりはまる
5日間の帆船クルーズの旅。
コモドの乾季シーズン(4月～10月末)に開催される
乾季オンリーのコモドクルーズです!

写真&テキスト＝鍵井靖章
協力＝STワールド
Design ＝ Yoshiko Murata
Art Direction ＝ PanariDesign

サバンナ気候の乾いた空気を受けて走る帆船ダイブクルーザー

K O M O D O C R U I S E



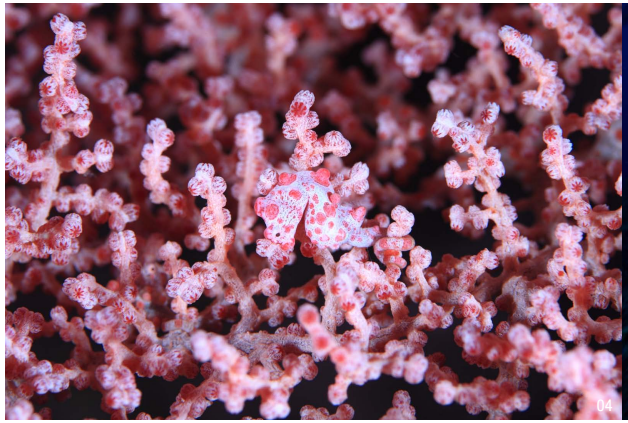
ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://stworld.jp/tour_list/?gid=65 click 関連情報HPへ

# 誰もが憧れる海中風景が広がるコモド北部の海！

コモドの主なダイビングポイントはコモド島、リチャ島周辺に点在する。ポイントはたくさんあるが、メインとなるのは30箇所ほど。クルーズのルートとして、コモドは北部、南部、セントラルに大別され、それぞれ特徴的なダイビングポイントを楽しむことができる。

まず、西部太平洋からの潮流が流れ込むフローレス海に面した北部は、透明度と水温が高い海域。コモドを代表する大物ポイントのキャステルロック、クリスタルロックでダイビングを楽しむことができる。両ポイントとも海面下にある大きな沈み根で、キャステルロックでは、大型回遊魚のイソマグロ、ロウニンアジなどが普通に見られ、早朝、サンセット、大潮回りではタカサゴ、ウメイロ類が大きな群れを作り、それをロウニンアジ、カスミアジが囲むように襲うシーンが見られる。時にはイルカも捕食に現れるというから驚きだ。また、とにかくハギ類のヒラニザ、サザナミトサカハギ、ブルーユニコーンなどの群れが大きく、潮流次第ではぐっと固まっている。そんなダイナミックな環境の海。また、季節（4、5、9、10月の新月週）によって産卵のために集まるイレズミフエダイも見られる。クリスタルロックも同じようなダイナミックなシーンが展開される。そして離れ根では、ハード&ソフトコーラルが群生する美しい景観が見られ、マダラトビエイ、ナポレオン、ヒメフエダイやイエローリボンスィートリップスの群れなどが見所となる。他にも、砂地にサンゴの根が点在し、スカシテンジクダイ、キンメモドキなどが群れるギリラワチャネルやパラダイスリーフもお薦めポイントだ。



01/早朝、クマザサハマムロに襲い掛かるカスミアジの群れに遭遇

02/潮流によって、群れの規模が異なるので、いつ潜っても面白い

03/白い砂地で見つけたクマノミのコロニー、癒しのポイント

04/ビグミーシーホースは水深26mほどで見つかる

05/夕方、捕食の機会を狙っているサラサハタに遭遇

06/クリーニングを受けて大口を開けるロウニンアジ

KOMODO CRUISE

世界遺産・コモドの海を巡る 魅惑の帆船クルーズ!



ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://stworld.jp/tour_list/?gid=65 clicks 関連情報HPへ

# 一度潜ったら、病み付きになってしまうコモド南部の海！

01/シーアップルを背景にアメフラシを撮影

02/面白い形のカイメンが海底に点在する

03/水深20mあたりで群れていたお魚たち。どことなく雰囲気がある

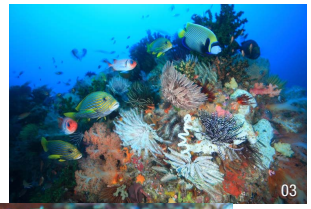
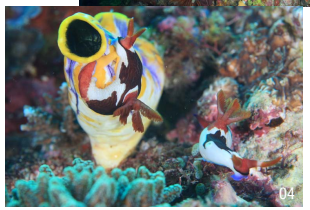
04/交尾後すぐのウミウシの産卵シーンに出くわす

05/キサンゴに群れるキンギョハナダイの群れ。キンチャクダイ系もよく見かける

06/触手を伸ばしてプランクトンを捕食するシーアップル

コモド南部の海は、とても特徴的だ。西オーストラリア沖からの南東貿易風がコモド、リンチャ島に当たり、湧昇流が出来ることで栄養分豊富な海が形成されている。南部を代表するポイントは、カーニバルロック。1ダイブで一周できるくらいの沈み根で、リーフの表面は、カイメン、ホヤ、ソフトコーラル、キサンゴ、イボヤギなどで覆われていて、他のエリアよりも緑や黄色などあまり海では主役にならない色が目立つ景観。これまで経験してきた海とは、どこか違うと感覚的にすぐに気がつくことができると思う。

ここでは、フィッシュウォッチングを楽しむよりも、これまで知っていたはずの海の景色の概念を捨てて、新しい発見を楽しむのが良いように思える。そのキーワードが色。海底を彩る独特の配色がコモドの海の奥深さ、興味深さを感じさせてくれる。もちろん、人気のウミウシや甲殻類の他、プランクトンを食べて成長するタカサゴ類の幼魚や若魚が群れ、インド洋側の影響で、インディアンバカボンド、ヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイなども見られる。コモドでは是非、潜ってほしいポイントだ。他にイエローウォール、トルペードアレイ、バナナアイランドなどのポイントがある。

KOMODO CRUISE

世界遺産・コモドの海を巡る 魅惑の帆船クルーズ!



ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://stworld.jp/tour_list/?gid=65 click 関連情報HPへ

白と黒のマンタが頭上で旋回を繰り返す。

白い砂地を横切ってクリーニングステーションに集まってくるマンタたち

このようにして、マンタに接近して撮影することができる

# 白と黒の大行進！ たくさんのマンタたちと過ごす時間

コモドの海で見られる代表的な大物は、マンタ。見られるポイントは、いくつかある。南部のマンタアレイやセントラルコモドのマンタファームが有名で、北部ではマンタの名前がつくポイントはないが、7月頃からは、パラダイスリーフのチャネルで見られるようになる。マンタアレイは、インド洋の外洋に面し、サンゴなどの艶やかさはないが、直接、海水が入り込むことで、マンタが通年見られるという好ポイントだ。通常のマンタと共にブラックマンタは高確率で見られる。根の東西でマンタの行動が違って、西側は、クリーニングステーション、東側はフィーディングステーションになっていて、それぞれ違った行動が観察できる。また北側の水路ではマンタが連なり、電車ごっこ状態が見られる。

7月以降、冷たい水が入ってくるとマンボウ、ジンベエザメ、シャチなどが見られる可能性もあるとのこと。マンタファームは水深15mの平坦なサンゴのガレ場が続く、所々にクリーニングステーションがあり、そこで頭上を掠めるマンタにご対面することができる。潮流やタイミングによって出会える枚数は異なるが、当たれば本当にすごいことに……!

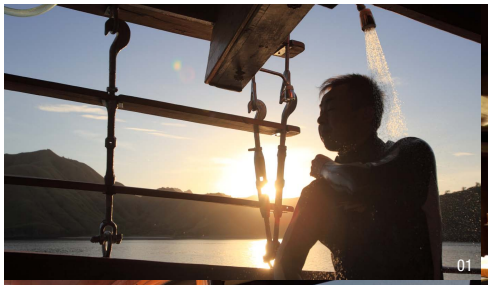
KOMODO CRUISE

世界遺産・コモドの海を巡る 魅惑の帆船クルーズ!

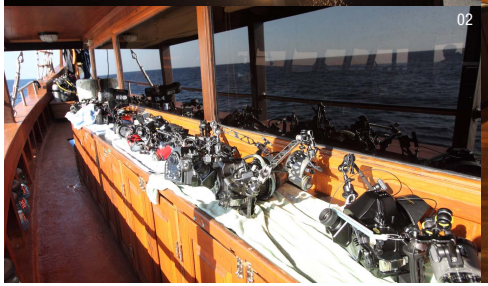


ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://stworld.jp/tour_list/?gid=65 click 関連情報HPへ



01



02

03

05

06

05/漆黒の闇に浮かび上がった幼魚の正面顔

06/こちらも名前はわからないが、ライトの光に反応して来た幼魚

07/チョウチョウウオの仲間だと思われる幼魚

# 快適ダイビングスペース！

コモド諸島を巡る帆船タイプのクルーズ船は、ダイビングデッキが広々。最大24名が活用できるスペースが確保されている。ダイブデッキには、個人のボックス、ダイビング後のタオルなどが用意されている。カメラ、ウェットスーツ、マスク専用の水槽やカメラ専用の棚もある。またリビング内のカメラ台もゆったりスペースで、充電なども楽チンにできたので、大変使い勝手が良かった。

04

01/ダイブデッキにあるシャワーを浴びる

02/側面にあるカメラ専用の棚

03/広いリビングでは、カメラの作業スペースも十分に確保されている

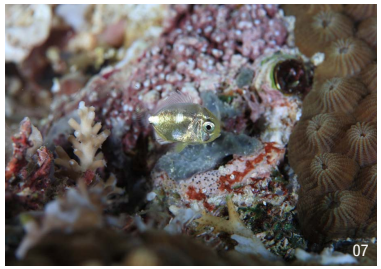
04/横に広い帆船なので、ダイブデッキも御覧の通り広々

KOMODO CRUISE

# 新月回りのスペシャルナイトダイビング！

これまでに4回ほど、乗船取材した私だが、コモドの魅力はまだまだあった！ 夕方、ガイドの唐沢さんが、たくさんの水中ライトを充電していた。「今晩は、スペシャルなナイトになりますよ～！ 鍵井さん～！」と満面の笑み。そして、ナイトのブリーフィングになると唐沢さんの姿が見えない。ガイドのエミさんに聞くと、「唐沢はもう仕込みのために海に潜ってます」とのこと。なんの仕込みかというと、新月周りに行われるスペシャルナイトダイビングで、名付けて「幼魚ナイト」！ お魚の研究者たちが行っている「ハンギングダイブ」に似たスタイルで、月明かりのない夜、ドロップオフの浅瀬で水中ライトを照らす。いつも深い海にいる幼魚たちが、捕食者の少ない夜、浅瀬にやってきて、プランクトンなどを食べる。その行動を利用して、いつもは見られない小さな幼魚を観察、撮影しよう！ というもの。

「こんなの知らなかった！」と言うと、「随分前からリクエストベースでやってるんです」と唐沢さん。最初は通常のダイビングでエビ・カニの甲殻類や寝ているお魚を見た後、後半に水中ライトに集まってきた幼魚を観察。どのお魚の子供か？ 正直、分からないけれど、暗い海の中で見る見慣れない幼魚たちの姿に、ちょっぴり深海の世界を覗いたような気持ちになれた。



07

世界遺産・コモドの海を巡る 魅惑の帆船クルーズ！



ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://stworld.jp/tour_list/?gid=65 click 関連情報HPへ

01

02

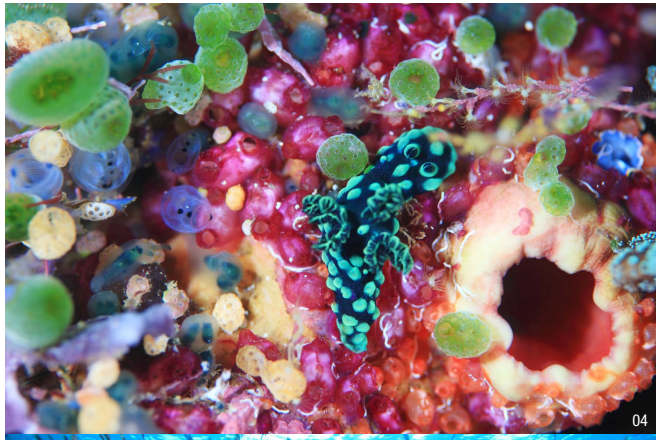
# 水中写真家・鍵井靖章が大好きな セントラル・コモド

北からの温かい海水と南からの栄養分豊富な海水がリンダ海峡によって結ばれるセントラル・コモド。ふたつの良さを混在したようなミラクルなポイントで、私（鍵井靖章）が、コモドの中でも、3か所、大切なポイントがある。まずは、ピンクビーチ。ポイントが南に面しているので、南側の影響を多く受けるポイントで、壁沿いには、果物のようなホヤ類が多く、マクロの視点で見ていくと、まるでお花畑が広がっていくようにも見える。フォト派ダイバーには何度撮影しても足りない好ポイントで、ここのお花畑を求めてコモドに来る価値はあると思う。

そして、タタワクチル。潮の流れを受けやすいポイントだが、サンゴはピカイチ。その上に無尽のキンギョハナダイが舞う様子に、感動して、涙を流しそうになった男性ダイバーも。

そして、バトゥボロン。このポイントも浅瀬のサンゴ礁とキンギョハナダイの群れが絶品で、リーフの傾斜ではカエルウオなどをたくさん見つけることができる。どこもコモドの海にあって意味や価値を与えてくれる極上のポイントばかりだ。

03


04

05

01/カラフルなホヤのアレンジを作ってみる

02/ウミシダのジャングルに現れたアデヤッコ

03/プレニーを撮影してもこんな風にキンギョハナダイが映り込む魚影の濃さ

04/カラフルな背景が、すでに用意されている

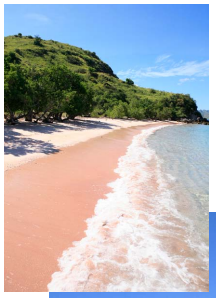
05/花吹雪のようにキンギョハナダイが舞う

世界遺産・コモドの海を巡る 魅惑の帆船クルーズ!



ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://stworld.jp/tour_list/?gid=65 clicks 関連情報HPへ



ピンクビーチに打ち寄せる波

高台に上り、島々の風景を楽しむ

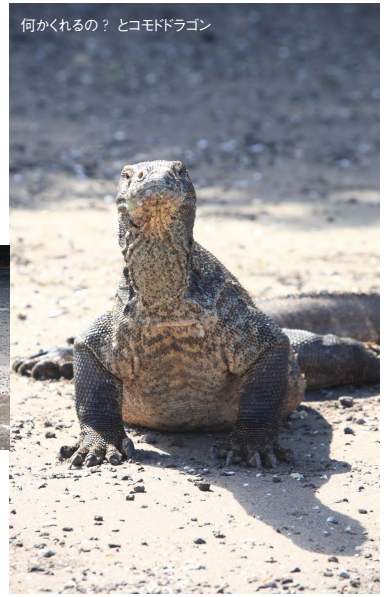
ピンクビーチにみんなで上陸。桃色の海岸線なんて、とてもロマンチック！

コモドは、熱帯気候のインドネシアでありながら、南東貿易風の影響で、サバンナ気候となり、荒涼とした乾燥した島々がひろがる。

そのような環境の中、クルーズ中に何度か島への上陸観察を楽しむことができる。まずは、世界的に稀なサンゴの欠片で作られるピンクビーチ。オルガンパイプコーラルというサンゴの仲間が、細かく砕けてできたポイントで、赤いサンゴの粒が白砂と交じり合ってピンクに見える。

# コモドドラゴン＆ピンクビーチの上陸観察！

水際まで行ってコモドドラゴンを観察



何かくれるの？ とコモドドラゴン

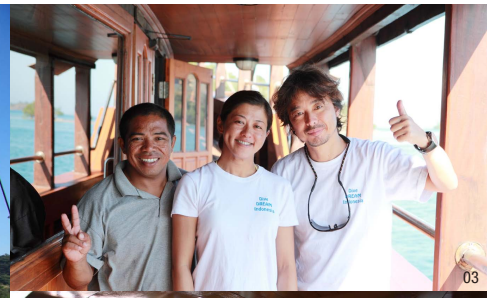
そして、人気のコモドドラゴン。観察できるポイントは2箇所ある。まずは、リンチャ島の観光エリアでもあるレンジャーステーション周辺。軒下には半野生（?）のコモドドラゴンがたくさんいる。他にも小高い丘に登って散策しながら、貝の化石、水牛、カニクイザル、ティモールシカなどにも会える。またコモドドラゴンの産卵床（産卵期、9・10月）で、卵を守るコモドドラゴンの姿が見られることも。そしてリンチャ島南部の海岸線でも出会うことができるが、ここは野生むき出し。海岸にボートで接近していくと、茂みの中から、私たちを餌として認識したドラゴンたちが現れてくる。

いきなり泳ぎ始めたコモドドラゴン。これは珍しいシーン。

世界遺産・コモドの海を巡る 魅惑の帆船クルーズ!



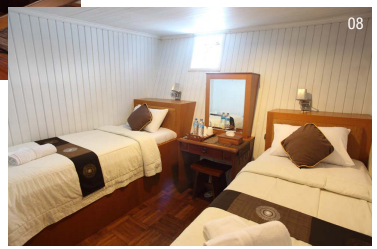
ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



# 豪華帆船クルーズの解体新書

インドネシア独特の造船技術で作られたペニシ船スタイルの帆船。木の温もりが感じられる趣のある船。船の大きさも十分で、ダイブクルーズによくある狭い空間感覚はなく、広々とのんびりクルーズが楽しめる。また、帆船タイプは、帆で走るために船底は、おわん状になっているので、多少の揺れはあるものの、快適なクルーズを約束してくれる。そして、帆を張った姿は美しく、コモドの景色によく映える。

いくつかのカテゴリーがある各部屋にはシャワー、トイレ、エアコン、バスローブ、スリッパ、歯ブラシなどアメニティーも完備。ホテル的なサービスを提供している。食事は、3食ビュッフェ。インドネシア料理がメインで、他にイタリアンなども織り交ぜたインターナショナルスタイル。日本人好みの味付けで人気がある。



07/客室は様々なカテゴリーがある。これはダブルベットの部屋

08/こちらはツインの客室

01/朝日を受けて疾走する帆船ダイブクルーザー

02/最後はみんなで記念写真！それにしても広いソファースペースでしょ!

03/唐澤さん、えみさん、ロジャーの素敵なガイドの面々

04/ブリーフィングはモニターを使用して、快適な空間で。

05/食事は毎回、ビュッフェスタイル。美味しいので食べ過ぎちゃう……。

06/テーブルスペースもこの広さ。のんびりと、「いただきます！」

KOMODO CRUISE

## ダイビングスタイル

1日3本。海況などによって変更はあるもののサンセット、ナイトダイブなどのオプションダイブが可能（1ダイブ35ドル）で最大1日5ダイブ。ナイトロックス（クルーズ通して150ドル）も完備されていて、クルーズ中にナイトロックスの講習も受けることができる。また、快適な空間でのモニターを使用しての丁寧なブリーフィングも人気がある。

世界遺産・コモドの海を巡る 魅惑の帆船クルーズ!



ocean+α ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://stworld.jp/tour_list/?gid=65 click 関連情報HPへ